

朝鮮朝顔

染谷 秀雄

メルカリで朝鮮朝顔の種を購入した。小さなビニール袋に五十粒ばかり入っていた。説明書きによると「寒さは苦手なので地温が二十〜二十五度頃に種蒔きする。本葉が三、四枚になったら一本に間引いて植え替える。日当たりの良い場所を好み、痩せ地でも育つが水を沢山必要とし、水枯れすると花付きが悪くなる。花が終わると大きな棘々の実の中に沢山の種が出来、茶色くなると自然に割れるので零れる前に収穫する。」とあった。花や種や根に毒性を持つているとも書いてある。一鉢に一つにして植え替えてみたが、大きく横に広がる性質があり苗の間隔を広くしないと枝が重なってしまうため、大きめの元氣そうなものを二本だけ間隔を開けて地植えた。するとぐんぐん伸びて太く大きく成長し始めた。水も最初は如雨露でやっていたがその内バケツで大量に撒くようにした。そのくらい水を欲しがった。後は時折、施肥しておいた。だんだんと枝葉が育ってきて丈が五十センチほどまで伸びて横に広がっていた。間隔を空けるということはそういうことだったのだということ成長するほど鮮ってきた。そのうちようやく蕾らしきものが見えたので太めの支柱を枝の方向に沿って数本立てて結わえた。蕾は順調にどんどん出来て大きくなっていき、ようやく夕方に咲き始め、夜には真っ白い大きな喇叭状の張りのある花を朝まで咲かせた。しかし日中には萎れて落花してしまう。丁度、ダチュラに似た花を上向きにした形だ。咲き終わると暫くして小さな丸い種らしきものが次第に大きくなって直径三、四センチの棘々に覆われた種を持った。